

『キリストの言葉だとわかる』

7:11 ユダヤ人たちは、祭りのとき、「あの方はどこにおられるのか。」と言って、イエスを捜していた。

7:12 そして群衆の間には、イエスについて、いろいろとひそひそ話がされていた。「良い人だ。」と言う者もあり、「違う。群衆を惑わしているのだ。」と言う者もいた。

7:13 しかし、ユダヤ人たちを恐れたため、イエスについて公然と語る者はひとりもいなかった。

7:14 しかし、祭りもすでに中ごろになったとき、イエスは宮に上って教え始められた。

7:15 ユダヤ人たちは驚いて言った。「この人は正規に学んだことがないのに、どうして学問があるのか。」

7:16 そこでイエスは彼らに答えて言われた。「わたしの教えは、わたしのものではなく、わたしを遣わした方のものです。

7:17 だれでも神のみこころを行なおうと願うなら、その人には、この教えが神から出たものか、わたしが自分から語っているのかがわかります。

7:18 自分から語る者は、自分の栄光を求めます。しかし自分を遣わした方の栄光を求める者は真実であり、その人には不正がありません。

7:19 モーセがあなたがたに律法を与えたではありませんか。それなのに、あなたがたはだれも、律法を守っていません。あなたがたは、なぜわたしを殺そうとしますか。」

7:20 群衆は答えた。「あなたは悪霊につかれています。だれがあなたを殺そうとしているのですか。」

7:21 イエスは彼らに答えて言われた。「わたしは一つのわざをしました。それであなたがたはみな驚いています。

7:22 モーセはこのためにあなたがたに割礼を与えました。——ただし、それはモーセから始まったのではなく、先祖たちからです。——それで、あなたがたは安息日にも人に割礼を施しています。

7:23 もし、人がモーセの律法が破られないようにと、安息日にも割礼を受けるのなら、わたしが安息日に人の全身をすこやかにしたからといって、何でわたしに腹を立てるのですか。

7:24 うわべによって人をさばかないで、正しいさばきをしなさい。」

●序論

最近のAI（人工知能）の進歩はすさまじく、それを利用した偽物のニュースや映像そして音声などで悪用されることがあります。

いつの時代でも、便利なツールを”悪用する”人間がいる。その背後には悪魔の知恵があると思わずにはいられません。

あなたがたは自分の父、すなわち、悪魔から出てきた者であって、その父の欲望どおりを行おうと思っている。彼は初めから、人殺しであって、真理に立つ者ではない。彼のうちには真理がないからである。彼が偽りを言うとき、いつも自分の本音をはいているのである。彼は偽り者であり、偽りの父であるからだ。（ヨハネ8:44）

イエスさまはだれに向かってそう語ったのか。

イエスさまの言葉を受け入れない人、否定する人、拒む人に対してでした。だからこそ今日、イエスさまの言葉をキリストの言葉だとわかることが一つのポイントです。それはだれにわかるのか？ イエスさまは言われました。

7:17 だれでも神のみこころを行なおうと願うなら、その人には、この教えが神から出たものか、わたしが自分から語っているのかがわかります。

●本論

I. イエスをめぐる人の評価

:11-12 …「あの方はどこにおられるのか。」と言って、イエスを捜していた。そして群衆の間には、イエスについて、いろいろとひそひそ話がされていた。

「良い人だ。」と言う者もあり、「違う。群衆を惑わしているのだ。」と言う者もいた。

ユダヤの人たちは、いろいろとイエスさまを評価していました。ただその噂をすることさえも、周囲を気にしました。それは近くにいるユダヤ人の指導者たちがイエスへの敵意を示していたからです。

ヨハネの福音書が記された目的を以前にも紹介したことがあります。

「しかし、これらのことを書いたのは、あなたがたがイエスは神の子キリストであると信じるためであり、また、そう信じて、イエスの名によって命を得るためである」（20:31）。

繰り返し、あのユダヤ人たちがイエスさまを受け入れようとしなかったことを記すことを描くことで、そんな人々に囲まれながらもなお、イエスさまは真実なお方であったことを示します。

そのように聖書に記されるすべてが、わたしたちに信じる心を起こさせるためであるということです。ですから「しかし」と言葉つなぎます。

しかし、彼を受け入れた者、すなわち、その名を信じた人々には、彼は神の子となる力を与えたのである。

II. イエスが語る言葉への反応

ここでイエスさまは祭りの後半、宮に入って教え始められました。

聞く人たちの驚きはその感想に現れています。

「この人は正規に学んだことがないのに、どうして学問があるのか。」(15)

イエスさまの答えははっきりしていました。

1) :16…「わたしの教えは、わたしのものではなく、わたしを遣わした方のものです。

それは、だれか有名な人の受け売りではなく、自分の個人的な考えでもありません。わたしを遣わされた神さまの思いをまっすぐにあらわす言葉です。

似たようなご発言は、すでに5章のところでされていました。

5:19…「よくよくあなたがたに言うておく。子は父のなさることを見てする以外に、自分からは何事もすることができない。父のなさることであればすべて、子もその通りにする。…」

2) :17 だれでも神のみこころを行なおうと願うなら、その人には、この教えが神から出たものか、わたしが自分から語っているのかがわかります。

ここが今日の一番のポイントです。イエスのなさが神からのものであるかどうか”わかる”人というのは、「神の御心を行おうと願う」人であるということです。

いわゆる学歴ではなく、”神の御心を行おう”という願いによって初めてわかるようになること、それがキリストをめぐる信仰の世界なのです。

パウロの証言。彼は、ガマリエルの師事のもと律法にだれよりも熱心であると自負していました。ユダヤ人たちが最も尊敬するものを持っていました。

のちの彼の言葉にはこうあります。

ピリピ3:7-8 しかし、わたしにとって益であったこれらのものを、キリストのゆえに損と思うようになった。わたしは、更に進んで、わたしの主キリスト・イエスを知る知識の絶大な価値のゆえに、いっさいのものを損と思っている。

彼は、キリストとの出会いを通して、初めて神の恵みの世界に足を踏み込み、そこから恵みに応え、神の御心を行おうという願いがまさる人生へと歩み出したのです。

3) :18 自分から語る者は、自分の栄光を求めます。しかし自分を遣わした方の栄光を求める者は真実であり、その人には不正がありません。

神の恵みの世界を語り、それを表すイエスさまは、ただひたすら父なる神さまの憐れみ深さを語り、その大きないつくしみを表し、神に栄光を帰するのです。

このイエスさまのお姿は、あまりに純粹でまぶしく、そこに不正はありません。

4) :19 モーセがあなたがたに律法を与えたではありませんか。それなのに、あなたがたはだれも、律法を守っていません。あなたがたは、なぜわたしを殺そうとするのですか。」

これに対して群衆は、反発しました。

7:20 群衆は答えた。「あなたは悪霊につかれています。だれがあなたを殺そうとしているのですか。」

「殺そうとする」とは物騒な言葉です。群衆の反発も当然です。

ここでキリストの十字架を付けたのがこのユダヤの群衆であったことを思い起こします。始まりは一部の人たちが抱いた妬みと憎しみ敵意から始まったものかもしれません。けれども、それがどんどん広がりを見せる。これが人の生きる世界です。

イエスさまの言葉はしばしばはっきりと人の反応を引き出します。まさに神の言葉。

ヘブル4:12 神の言は生きていて、力があり、もろ刃のつるぎよりも鋭くて、精神と靈魂と、関節と骨髓とを切り離すまでに刺しとおして、心の思いと志とを見分けることができる。

Ⅲ. イエスが指摘する過ち

7:24 うわべによって人をさばかないで、正しいさばきをしなさい。」

ユダヤの指導者たち、そして人々は、イエスさまを裁いていました。それは、さかのぼることあの5章で、ベテスダの池で安息日に38年もの間病で苦しんできた人をいや

した奇跡をめぐってでした。

ユダヤ人たちが心は、その人がいやされたことに感動するのではなく、安息日で自分たちが主張する戒めを破られたことに腹を立てたのです。

5:16そのためユダヤ人たちは、安息日にこのようなことをしたと言って、イエスを責めた。

その時にヨハネの福音書では、彼らの殺意を書きますが、そこにはこうあります。

5:18 このためにユダヤ人たちは、ますますイエスを殺そうと計るようになった。つまり、イエスさまをめぐり殺意はここに始まったのではなくその以前からあった。

あらためて、イエスさまは、彼らに安息日に神さまの御業としてのいやしがなされることにさえ、いらだちと敵意をつのらせていたという。

それは「宗教的厳格さ」という言葉であれば、ある程度分かりやすいけれども、実はそこに、神さまが見えていないことがわかります。

神さまよりも、そこに生きる自分たちの正しさの誇張が目立っているのです。

そういう中ではいると、正しい判断ができない。…でいる自分にさえ気づかないのかもしれないかもしれません。イエスさまの言葉はわたしたちの心を探ります。

7:24 うわべによって人をさばかないで、正しいさばきをしなさい。」

そういう中だからこそイエスさまの言葉は新鮮に聞こえてほしいと思います。

7:23 …わたしが安息日に人の全身をすこやかにしたからといって、何でわたしに腹を立てるのですか。

●おわりに

最初に、AIというツールを悪用する人がいる。そこに人の悪意があるから。そしてその悪意を助長する霊的な存在についても少し触れました。

悪魔は、人殺しであって、真理に立つ者ではない、ということでした。

そういう存在が、わたしたちが抱くいらだちや敵意、わだかまりの隙間に、だましごとや殺意をも吹き込みます。

それがしばしば正義ある大きな敵意・殺意として、大きく周囲の人々をも覆うことになりかねません。

かつてそういう「正義ある敵意」に囚われて、クリスチャンを迫害してきた迫害者パウロは、イエス・キリストに出会い、この方の赦しを受けて変えられ、伝道者パウロとなりました。何よりも神さまの前に謙虚にされ、人の前に謙虚にされていくのです。それが「神の御心を行う」伝道者の歩みとなりました。

7:17 だれでも神のみこころを行なおうと願うなら、その人には、この教えが神から出たものか、わたしが自分から語っているのかがわかります。

ただクリスチャン生活を決まりごとに従って歩むというところから、あらためて「神の御心を行おうと願う」ことに心に向ける時、もしかしたら私たちは気づきを与えられるのではないのでしょうか。

キリストの言葉と思いに心を重ねて生きる幸いを経験できると信じます。